



株式会社ビーアンドピー

2022年10月期 第2四半期 決算説明資料

証券コード 7804

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。さまざまな要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

1

2022年10月期 第2四半期 業績サマリー

2

今期の取り組みと進捗状況

3

成長ビジョン

4

株主還元

5

参考資料

1

2022年10月期 第2四半期 業績サマリー

2022年10月期 第2四半期 業績サマリー



売上高

1,401百万円

通期計画進捗率

51.0%

前年同期比

8.4% 増

営業利益

168百万円

通期計画進捗率

55.7%

前年同期比

11.6% 増

ポイント

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも業績回復傾向が継続。
- ✓ 主要拠点の東京・大阪における営業体制強化、名古屋・福岡エリアにおける積極的な新規顧客獲得活動により売上高は計画通りに進捗。
- ✓ 前期の生産拠点統合による大規模生産体制の構築により生産性が向上。
- ✓ 資材価格の高騰は代替品の調達等により重要な影響は発生しない見込。
- ✓ 新規事業のデジタルサイネージ、デジタルプロモーションは顧客開拓に邁進。デジタルサイネージ事業は上期中に大型案件を受注するなど一定の成果を獲得。

2022年10月期 第2四半期 P/Lサマリー



売上高・営業利益ともに**年間進捗率50%超**を達成
通期計画達成に向けて順調に推移

(単位：百万円)	2021.10 2Q (実績)	2022.10 2Q (実績)	対前年同期比 増減率 (%)	2022. 10 通期計画	進捗率 (%)
売上高	1,293	1,401	8.4%	2,750	51.0%
営業利益	150	168	11.6%	302	55.7%
経常利益	158	168	6.4%	302	55.8%
当期純利益	107	99	▲7.1%	206	48.3%

財務指標



▶ コロナ禍の経済不安な状況でも一定の利益を確保、**強固な財務基盤を維持。**
▶ 自己資本比率は、84.8%と80%台を維持。

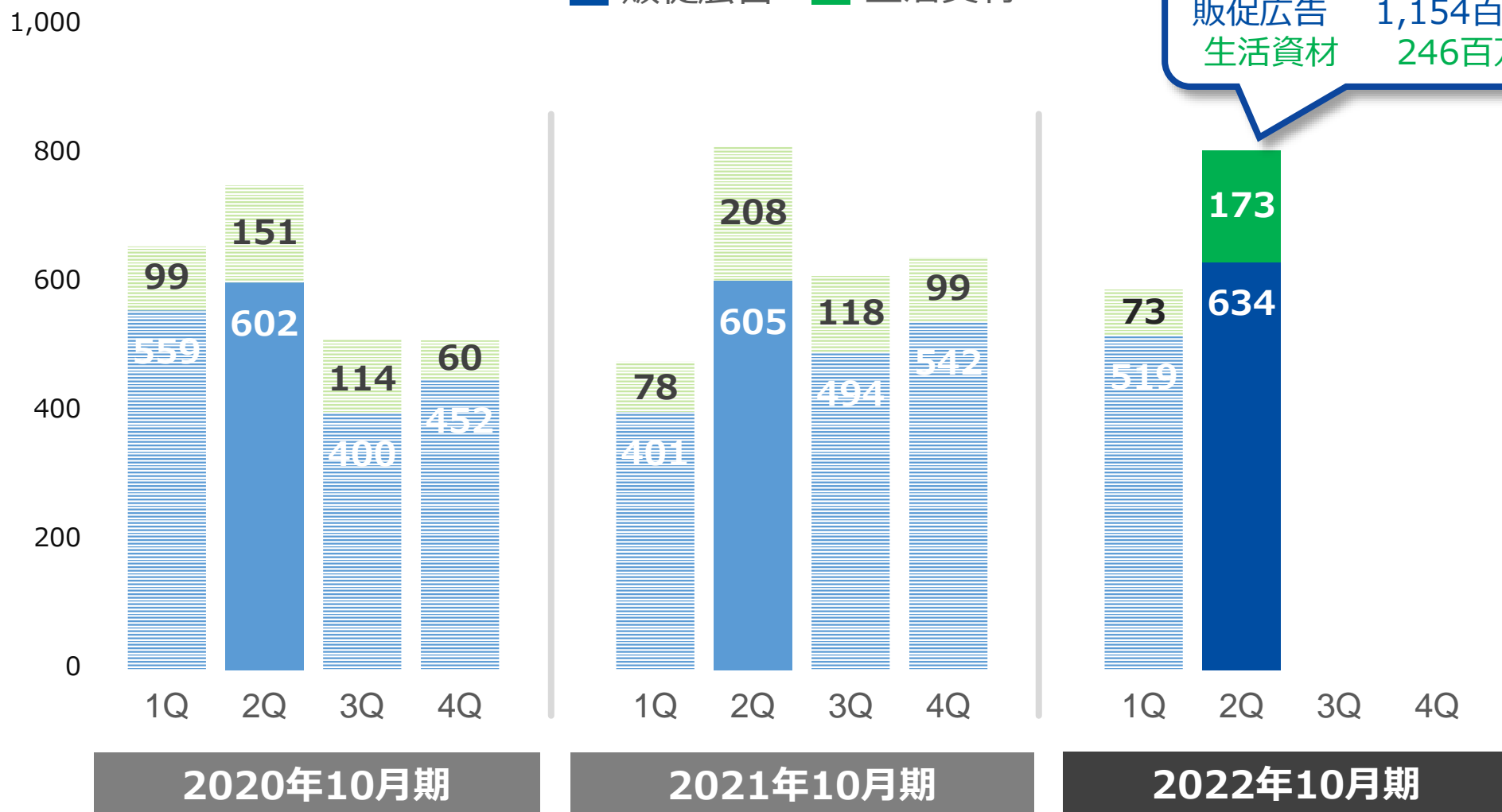
(単位：百万円)	2018年10月期	2019年10月期	2020年10月期	2021年10月期	2022年10月期 2Q
純資産額	1,825	2,588	2,613	2,752	2,776
総資産額	2,451	3,160	3,025	3,191	3,274
自己資本比率	74.5 %	81.9 %	86.4 %	86.3 %	84.8 %

四半期単位の売上推移

> 販促広告関連は積極的な営業展開により**前期比プラス**を達成
 市場の回復基調により**業績は回復傾向**

(単位：百万円)

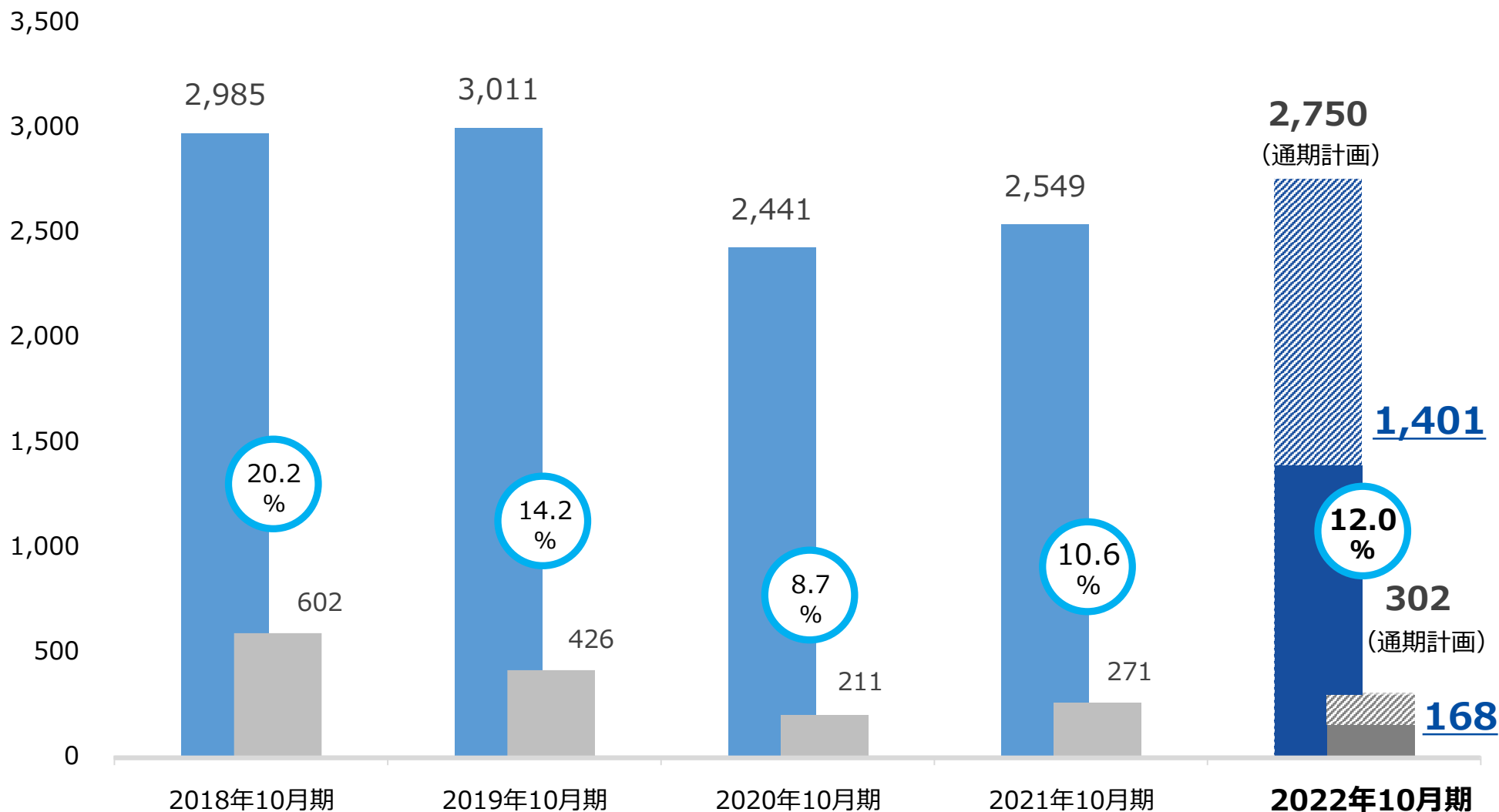
■ 販促広告 ■ 生活資材



2Q累計
 販促広告 1,154百万円
 生活資材 246百万円

5年間の業績推移

(単位：百万円) ■ 売上高 ■ 経常利益 ○ 経常利益率



貸借対照表



(単位：百万円)	2021年 10月期	2022年 10月期 2Q	増減額		2021年 10月期	2022年 10月期 2Q	増減額
流動資産	2,930	3,015	+85	流動負債	309	344	+34
現金・預金	2,331	2,306	△24	買掛金	133	163	+30
売掛金	404	455	+51	固定負債	128	153	+24
その他	194	253	+58	負債合計	438	497	+59
固定資産	261	258	△2	純資産合計	2,752	2,776	+23
有形固定資産	86	90	+3	資本金	286	286	±0
無形固定資産	41	36	△5	資本剰余金	276	276	+0
投資その他資産	132	131	△0	利益剰余金	2,190	2,219	+28
資産合計	3,191	3,274	+82	自己株式	—	△5	△5
				負債純資産合計	3,191	3,274	+82

2

今期の取り組みと進捗状況

業績予想

主軸のインクジェットプリント事業の本格回復に加え、新たな成長戦略推進のための基盤づくりに着手。
前期比約8%の増収、36%の営業増益を計画。

	2021年10月期 (実績)	2022年10月期 (予想)	増減率 (%)
(単位：百万円)			
売上高	2,549	2,750	+7.9%
売上総利益	1,001	1,122	+12.1%
売上総利益率	39.3%	40.8%	
営業利益	222	302	+36.0%
営業利益率	8.7%	11.0%	
経常利益	271	302	+11.3%
経常利益率	10.6%	11.0%	
当期純利益	189	206	+8.9%

2022年10月期の取り組みと進捗状況



インクジェットプリント事業

新規開拓の加速と営業力強化
 新商材提案・Web集客強化
 原価低減・設備投資

積極化

- 新商材としてSDG s 関連商品の積極的な販売展開
- 資材高騰による代替資材検討、業務自動化や品質向上に向けた設備投資の実施



デジタルサイネージ事業

販促分野・インテリア分野に向けたサイネージ機器提案
 映像配信システムの導入提案

進展

- 展示会出展など事業拡大に向けて積極的な活動を実施
- コンテンツを一元管理する仕組みによる映像配信システムの提案推進



デジタルプロモーション事業

Webプロモーション提案
 実店舗における販促提案

推進

- EC運営サポート・Webプロモーションのキャンペーン企画などサービスの認知拡大に向けて提案活動を実施













SDGsに関する取り組み

環境に配慮したエコメディアへの切り替え

環境にやさしいエコ素材への切り替えを提案 SDGsの17のゴール達成に向け事業を通じ社会へ貢献



主なエコメディアの紹介

エコメディア	商品説明	環境貢献度	コスト	耐久性
LIMEX 電飾シート 	石灰石が主原料となり、炭酸カルシウムなど無機物を50%以上含む、無機フィラー分散系の複合素材の電飾シート。			
Re-board (リボード) 	リサイクル可能な紙100%からできており、原材料であるパルプも間伐材のみを使用。			
バナナ ペーパー 	オーガニックバナナの茎から繊維を取り出し、古紙やパルプを混ぜ合わせて作られており、SDGsの17目標全てに繋がるフェアトレード認証の紙。			

首都圏エリアにおける事業体制の整理統合

生産拠点統合により生産効率が向上

首都圏エリアの生産機能を横浜へ統合
大規模生産を実現するとともに生産効率が大幅UP

生産体制



ワンフロアで作業を完結でき、
生産スピードが向上

1人当たり生産高

12.7%
UP

2021年10月末

2022年4月末



横浜ファクトリー

デジタルサイネージ市場は今後も市場拡大が期待

事業拡大の展望とステップ

- ✓ インクジェットプリント事業の経験やノウハウを活かし、
より効果的な広告運営をサポート
- ✓ 流通市場への参入を強化するため、
あらゆる商材を継続的に導入・検討する
- ✓ コンテンツ作成・配信管理まで一括で請け負い、
提供サービスのバリュー向上を目指す



市場でプレーヤー化
ポジションを獲得

2021
START

サービス開始
プロモーション
2022

ユーザーの
選択肢の一角へ

2023

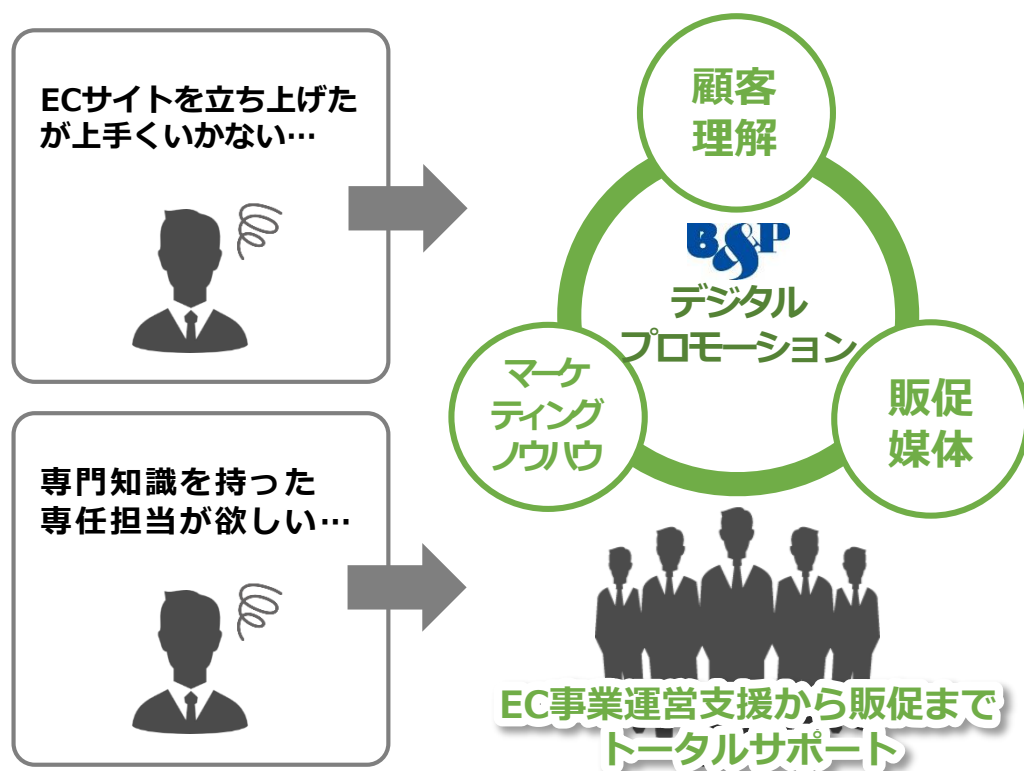
2025

※株式会社富士キメラ総研「デジタルサイネージ市場総調査2019」

新規事業の特徴

デジタルプロモーション事業は顧客のDX化に貢献

紙媒体の広告からWEBプロモーションへのシフトチェンジをサポート
積極的なキャンペーン企画を提案



✓ 大型EC経験者などの豊富な経験をもとに課題を抱えている企業に対してEC領域の課題解決を提案。

✓ WEBプロモーションと合わせて実店舗での販促支援の提案などインクジェットプリントサービスの経験と実績を活かして当社にしかできないプロモーションを提案。

✓ SNS集客施策やキャンペーン企画などのWEBプロモーションの提案を行い、販売促進のデジタル化を提案。

3

成長ビジョン

3つの事業領域

販売促進・マーケティングをトータルサポートする ワンストップ企業を目指します

どんなものにも印刷できる
プリントサービスのプロフェッショナル

インクジェットプリント



注目効果を
高めるための
ノウハウ



広告を知り尽くした会社の
映像コンテンツを活用した空間演出

デジタルサイネージ

B&P
3 Solution
Link

デジタル
領域の
専門的な知識

店舗の装飾・
販促物
制作の実績



ネットショップ運営代行から
ECコンサルまでトータルでサポート

デジタルプロモーション

「リアル」 × 「デジタル」

リアルとデジタルの両領域で幅広いサービスを展開していく

DP事業：WEBプロモーション支援とECサイト構築サービスを展開

DS事業：IJ事業のノウハウを活かしてデジタルサイネージを展開

IJ事業：インクジェットプリントサービスの拡大

オーガニック成長 + M&A

過去

現在

未来

DP事業

DS事業

IJ事業

デジタル
プロモーション

デジタル
サイネージ

生活資材

広告販促

成長基盤を一層強化できる企業とのM&A

さらなる成長および企業価値向上の実現に向けて
プロジェクトチームを編成して積極的具体的に計画を進めてまいります

M&Aに関する基本戦略

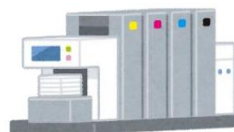


顧客基盤の 拡大



営業地域や
顧客層の拡大を図る

生産能力の 拡大



超量産ロットの
受注体制の構築

エリア販路の 拡大



エリアを広げ
販路を拡大していく

付加価値ビジネス への進出



新たに付加価値がある
ビジネスに進出する

4

株主還元

**株主への利益還元は経営上の重要施策であり
適切な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持継続**

	2021.10月期	2022.10月期
期末配当金	31円	31円 (予想)

5

參考資料

事業概要



企業理念 より良い働きを通じて全従業員の物心両面の幸せを創造し社会へ貢献する

事業内容 販売促進用サインディスプレイの制作
屋外用大型サイン・広告の制作
建物の内装、インテリア用品の出力、制作
広告企画および制作に関する提案業務
デジタルサイネージソリューションの提案業務
EC運営の総合支援
webプロモーションの提案

代表者 代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥

設立 1985年10月

資本金 2億8千6百万円

本店 大阪府大阪市西区

事業所 大阪、東京、横浜、名古屋、福岡

従業員数 正社員：179名（2022年4月末現在）

上場証券取引所 東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7804）

上場日 2019年7月24日

拠点間で連携した営業・生産を実現しています。

大阪本店 (大阪市)

デジタルサイネージショールーム併設



東京本社 (東京都中央区)

デジタルサイネージショールーム併設



福岡営業所 (福岡市)



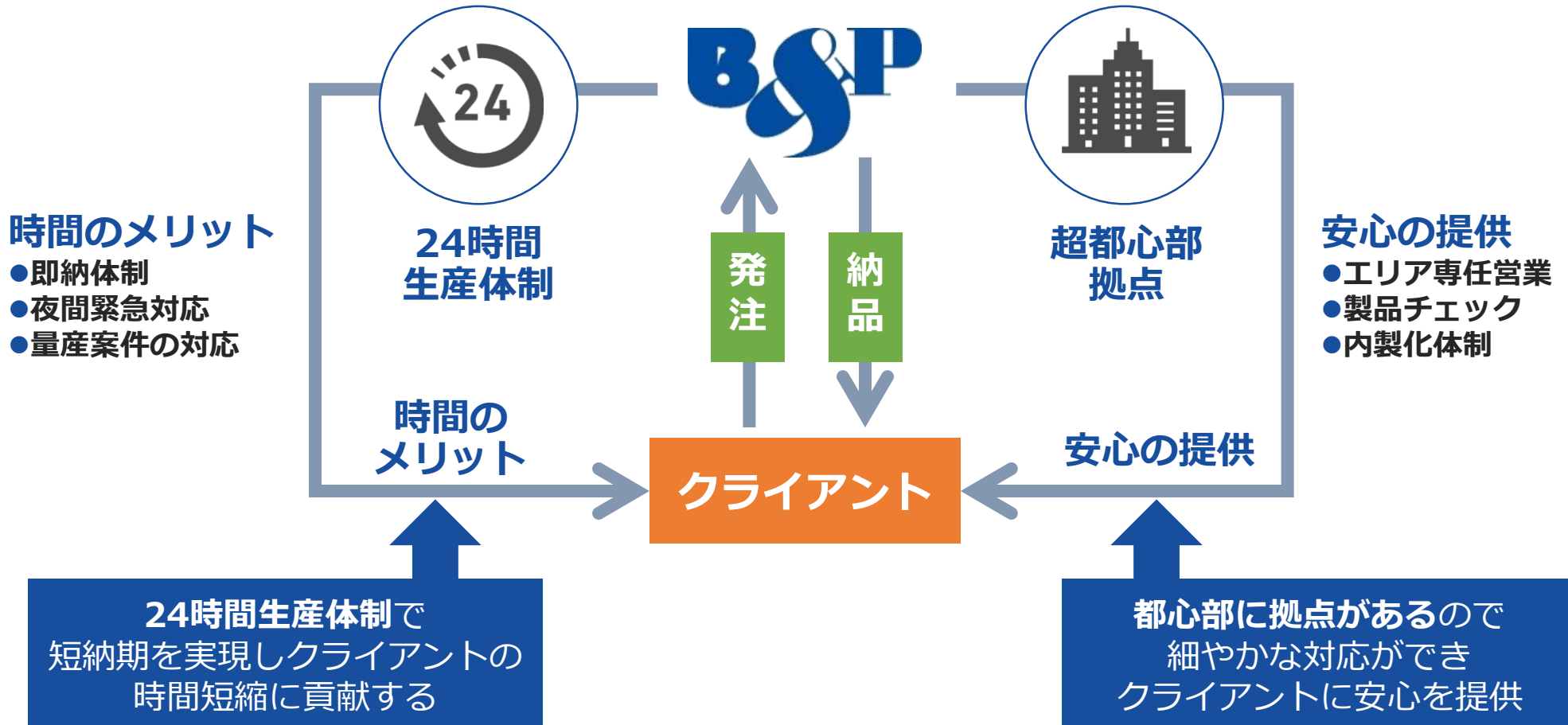
名古屋営業所 (名古屋市)

横浜ファクトリー (横浜市)



ビジネスモデル

「独自の付加価値サービス」を提供し、発注リピーターを増やす



全国都心部の拠点に生産設備を配置 24時間生産体制で短納期を実現しています



インクジェットプリント事業



100台以上の生産設備で多種多様な製品を制作 顧客要望に沿った最適な商品の提案しています

Mimaki 3DUJ-553

フルカラーUV効果インク
ジェット3Dプリンタ



EPSON P20050

水性インク出力機



Mimaki JFX500

フラットベッドUVインク出力機



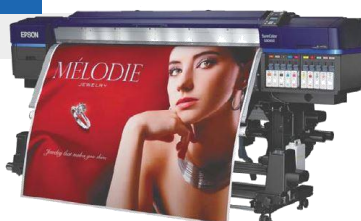
HP LX360

ラテックスインク出力機



EPSON S80650

溶剤インク出力機



FOTOPA XLD

カッティングマシン
(ロール・シート印刷物対応)



EFI Vutek 5r

スーパーワイドUVインク出力機



UJV55-320

ワイドUVインク出力機



Kongsbelg XP

超高速マルチカッティングマシン



他にも、Mimaki UJV500 (UV機)、
Mimaki JV300 (溶剤機)等、
合計80台の出力機を保有しています。

2つの業界に対して商品を展開しています

SOLUTION 01

販売促進向けデジタルサイネージ

デジ棚



“デジ棚”のコンセプトはサイネージを置くのではなく“棚を丸ごと動画にする”という発想です。まさに「動く商品棚」です。動画コンテンツの配信・運用まで行います。

SOLUTION 02

インテリア分野向けデジタルサイネージ

デジ窓



“デジ窓”は「世界の風景を連れてくる」をコンセプトに窓のないオフィスやカフェ、会議室に彩りと安らぎをもたらす新しいデジタルサイネージです。

リアルとデジタルの販売促進をトータルでサポート

インクジェットプリント事業で蓄積された「販促ノウハウ」「顧客基盤」を活かし
多角的にセールスプロモーションを支援



EC
運営代行



EC
コンサル



サイト制作
システム
開発支援



プロモーション



PR・SNS
運営代行



実店舗
販促支援

デジタルとリアルで商品・サービスの販売促進を トータルでサポートできるのがB&Pの強み

免責事項

将来の見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社ビーアンドピー 経営管理部

Email: ir_bp@bandp.co.jp

<https://www.bandp.co.jp/ir/>